

第1回 建築構造基準委員会 議事概要

日時：平成23年6月8日（水）15:00～17:20

場所：中央合同庁舎7号館12階共用第2会議室

1 開会

国土技術政策総合研究所水流副所長からあいさつがあった。

2 議事

(1) 建築構造基準委員会について

委員長から、本委員会の趣旨を確認した。

(2) 東日本大震災における建築物の被害を踏まえた安全性確保対策について

① 建築物の被害調査について

国土技術政策総合研究所及び（独）建築研究所による調査について、事務局より資料説明があった。続いて、建築構造基準委員会による調査について、調査参加委員より資料説明があった。委員から津波による被害について以下の質疑等があった。

- ハワイでは海岸にはRC造、その後ろに木造を建てるよう行政指導されている。
- 女川町では、70m流された例が報道されているものの、総じて言えばRC造については構造躯体は無被害で残っている建物が多かった。
- 今後の津波避難ビル等の対応について、土木構造物の対応策も参考にしておくべきではないか。
- 弱者が在館している施設もあるので、建物によって基準や性能を変えていくべきではないか。

② 津波による建築物被害を踏まえた対応について

事務局及び協力委員から資料説明の後、委員から以下の意見等があった。

- 遡上した水が落ちてくる時の速度圧の検討も必要ではないか。
- 杭の設計条件についても調査できるとよい。
- 今回の被害では、洗掘と杭被害の関係も留意すべき。
- 基礎の部分が洗掘された後の2回目の津波で被害が生じた事例はなかったのか調査できないか。
- 津波避難ビルについて、ドアが3階までは流失し、4階は残存していたものがあり、ドアの耐力から3階レベルと4階レベルの力の差が検討できるのではないか。
- 土木の分野の検討については、国総研内部、また、関係する研究所もあるので、是非情報をお互い共有する形で検討を進めていきたい。

③ 地震動による非構造部材の被害を踏まえた対応について

事務局より資料説明の後、委員から以下の意見等があった。

- 地震被害の経緯の中で、対策が講じられてきたが、天井については、どの年代の
どういう工法のものに気をつけたらよいといった整理はできないか。
- 在来工法が、超高層ビルや大空間など以前想定していなかったものにも使われ始
め、大空間については、問題が顕在化してきている。
- 設計法だけでなく施工の面、実際の設計からの議論も行っていくべきではないか。

(3) 長周期地震動対策について

長周期地震動対策および長周期地震動対策検討 WG の設置について、事務局より資
料説明があった。委員から以下の意見等があった。

- 今回の震災では、家具の転倒について、超高層の家具の転倒の被害はそれほど大
きくなく、中層・低層の建物の方が被害は大きかった印象がある。超高層につい
ての情報の出し方に留意するとともに、家具の転倒の問題も別途とりあげるべき
ではないか。
- 連動型の地震動については、今後対応を検討する必要。
- WG では、外力の特性によって建築物がどういう応答をするかということについ
て検討いただきたい。
- 長周期地震動対策検討 WG の設置について了承された。

(4) 今後の技術基準の見直しについて

技術基準等原案作成 TG の設置について、事務局より資料説明があった。技術基準
等原案作成 TG および STG の設置について了承され、STG の設置等については機動
的に行うとともに、委員は可能な限り協力することとされた。

3 閉会